



子どもの権利に関する推進計画

札幌市の「子どもの権利条例（子どもの最善の利益を実現するための権利条例）」では、子どもの権利保障を進めるために、市が総合的な推進計画をつくることを定めており、札幌市では、現在、平成23年度から26年度までの4年間を計画期間とする推進計画の策定を進めています。策定にあたっては、学識経験者や学校、地域関係者のほか公募委員からなる札幌市子どもの権利委員会に諮問を行いました。また、子どもに関する実態や市民の意識を把握し、計画に反映させるため、子ども及び大人それぞれ5千人に対してアンケート調査を実施したほか、子どもとの意見交換も行いました。

この計画は、基本理念や、市としての目標・施策の方向性を示すとともに、子どもの意見表明・参加の機会、体験事業の充実、居場所づくりなど、今後、市が進めていく具体的な取組や事業をまとめたものです。札幌市は、これに基づき、生活の場における子どもの権利のより一層の保障を図り、子どもの成長を社会全体で支えるまちづくりを進めていきたいと考えています。

札幌市からの お知らせ

札幌市では、子どもの権利について、職員が地域に出向いて説明する出前講座を行っています。

- 10人くらいのグループ
- 市内に会場の確保をお願いします。
- 1か月くらい前にご連絡ください。

お申込みは下記の、
子どもの権利推進課へ



子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第4号
平成23年3月発行

子どもが学ぶ地域の安全

～厚別区もみじ台地区「子ども地域安全マップ作成教室」～

厚別区のもみじ台地区では、平成22年10月5日、もみじ台、みずほ、もみじ台南、もみじ台西の4つの小学校の5年生が合同で地域の安全マップづくりを行いました。

この4つの小学校では、今年4月に統合が予定されており、多くの児童が、友達と別れ、新しい学校に通うこととなります。今回の子ども地域安全マップ作成教室は、4つの学校の児童が、統合という環境の変化を乗り越え交流を深めるとともに、新しい学校に安心して通えるよう、子どもたちに犯罪に備える力を高めてもらうため、学校が中心となり、区や、町内会、PTAなどの協力を得て実施されたものです。

マップづくりに先立ち、講義が行われ、「入りやすく見えにくい場所」をキーワードに、犯罪の起きやすい場所について勉強しました。



イラストを使った分かりやすい説明で、犯罪者にとって都合のよい「入りやすく見えにくい」場所についてよく理解できたようです。

講義の後は、6人一組で町の探索を行い、発見したことをもとに、安全な場所、危険な場所をのせた地図をつくります。探索では、公園や駐車場などを見つけて、みんな「入りやすく見えにくい」かどうか考えたり、地域の人にドキドキしながら「危ないと感じたことはないか」など質問をしたりして、情報を集めました。探索から戻ると、どの場所を地図にのせるか、どうすれば見やすくなるか班ごとにみんなで熱心に話し合い地図をつくりました。参加した子どもたちは、「これまで犯罪など意識したことはなかったけど、今回、安全マップづくりをして危ない場所があることに気づいた。」と真剣な表情で語ってくれました。

翌週は完成した地図の発表会が行われ、地域関係者が見守るなか、「この公園は、テーブルに落書きがあるなど近所の人々の関心が低く危ない」、「この辺りは、ガーデニングをしている家が多く、地域に対する関心が高い」など地図づくりの成果を一生懸命発表しました。

安全マップづくりの講師でエクスペローラー北海道の佐藤一美（さとうひとみ）さんは、「大切なのは、地図づくりを通して、地域について新しい発見をし、人々と交流することで、まちが好きになり、守りたいと思うことです。これからは、君たちが地域を守るリーダーになり、今回学んだことを下級生にも教えてあげてください。」と子どもたちに語りかけました。

今回、子どもたちがつくった地図は、今後、学校の授業などで活用していくほか、区役所でも危険箇所の改善などに役立てる予定です。



子どもイベント情報

サタデー・テーリング2011

期 間 4月2日(土)～9月24日(土)の毎週土曜日
場 所 市内各所のスタンプポイント施設(30ヶ所)
お問い合わせ 財)札幌市交通事業振興公社
☎251-0822

「共通1DAYカード」や「ドニチカキップ」を利用して、市内30ヶ所のチェックポイントをまわりスタンプを集めると、スタンプの数にあわせて記念品がもらえます。

子育てサロンin円山ZOO

日 時 3月24日(木)
場 所 札幌市円山動物園(中央区宮ヶ丘)
参加方法 直接会場へ(一部、事前申込が必要)
対 象 乳幼児とその保護者
お問い合わせ 北海道子連れプロジェクト
☎676-4222

ちょっとおしゃれな子育てサロン。手作り教室や親子で参加できるプログラムなど盛りだくさん。

子どもたちが作る「札幌の歴史新聞」作品展

期 間 3月25日(金)～4月8日(金)
場 所 札幌市文化資料室内郷土史相談室
(中央区南8条西2丁目旧豊水小学校複合施設内)
お問い合わせ 札幌市文化資料室
☎521-0205

文化資料室の行事「札幌の歴史探検～歴史新聞をつくろう」の講座で、子どもたちが作成した新聞を展示します。

青少年科学館春の特別展

期 間 3月26日(土)～4月3日(日)
場 所 札幌市青少年科学館
(厚別区厚別中央1条5丁目2-20)
お問い合わせ 札幌市青少年科学館
☎892-5001

春休み限定で科学館に登場する「楽しい学校」では、実験や工作のほか、頭や体を使って楽しめる企画がいっぱいです。

『こどもたち一人一人がイキイキと成長できる場所』創り

～共育コミュニティでの挑戦～

こども共育サポートセンターは、不登校の中高生や高校を中退した10代の若者の自立支援を中心に、小中学生や高校生などの『こどもたち一人一人がイキイキと成長できる場所を創る』ことをテーマに活動をしているNPO法人で、2006年4月より事業を開始、同年7月にNPO法人化を行いました。

現在、『こどもたち一人一人がイキイキと成長できる場所を創る』ために、地域での遊び場創り活動や商店街の活性化活動などのボランティアを10代～30代の青少年と共に行うことのできる【共育コミュニティ】づくりを進めています。

こどもたちがイキイキと成長していくためには、自分を受け入れてくれる仲間とともに挑戦できる場所【共育コミュニティ】が求められていると考えています。こどもたちにとって一人では達成しにくいことも、仲間とともに考え、試行錯誤をして準備を進め、実施を行い、その結果から次の課題を見つけるといふ一連の活動を通して、支えてくれる仲間がいることの心強さを感じ、達成することの喜びを得ることができるのです。このようにこどもたち一人一人が安心してイキイキと成長できる場所を創り、10代～30代の異年齢の青少年が集まる環境の中で、こどもたちにとっては、自分の一歩二歩先に行く先輩への憧れなどから身近な自分の目標を持つ機会が生まれ、自分の目標へ向けて歩みを進めることができるようになります。

共育コミュニティの中でも、地域での遊び場創りの活動においては、10代～30代の青少年へ向け



NPO 法人
こども共育サポートセンター
代表理事

長江 孝 さん

1978年釧路市生まれ。こどもたちの成長のステップにかかわる事が大好き。

通信制高校教員を経て、2005年4月にこども共育サポートセンターを設立し代表へ就任。
北海道レクリエーション協会 人材開発委員 レクリエーション・コーディネーター、中の島商店街理事

て、こどもたちや親子向けの遊びの技術を学び、実践できる指導者の育成を行う『あそび場共遊スタッフ養成講座』（詳細はHP参照 <http://www.kodomokyoku.org>)の運営を行い、10代～30代の青少年がボランティアスタッフとして地域での遊び場創りの基礎を作るためのスキルアップに取り組んでいます。また、2011年4月からは『あそび場共遊スタッフ養成講座』にて育った10代～30代のボランティアスタッフと共に小学生向けの体験活動プログラム（詳細はHP参照 <http://www.kodomokyoku.org>)を定期的に提供できる場面づくりを開始するために準備を進めています。

今後も、こども共育サポートセンターでは、『こどもたち一人一人がイキイキと成長できる場所を創る』ために活動を推進します。



地域で活躍する子どもたち

子どもの権利フェスタ「子どもの参加・体験活動報告」

昨年11月20日、「さっぽろ子どもの権利の日」記念イベント「子どもの権利フェスタ」が開催され、北野、清田中央、上野幌東小ミニの3つの児童会館の子ども運営委員会が、自分たちの行っている地域活動について発表しました。

北野児童会館では、昨年7月に開館20周年記念式典とサマーフェスティバルが開催され、子ども運営委員会は、式典のナレーションや、企画コーナーの準備を担当しました。発表では、企画コーナーを決めたときの委員会での話し合いや、がんばって準備をしたことなど生き生きと報告してくれました。

2番目の清田中央児童会館子ども運営委員会は、昨年11月に行われた開館20周年記念祭について発表しました。記念祭の準備のため、16

回も集まって話し合いをしたそうです。また、準備を進めるなかで、北野児童会館など周りの児童会館の子どもたちとも交流を深め、仲よくなれたとのこと。そして最後は、記念祭のためにメンバーでつくった児



童会館の歌「ぼくらのお城パワフルかん」をみんなで歌い、発表を締めくくりました。

最後に、上野幌東小ミニ児童会館子ども運営委員会からは、地域の知的障がい者支援施設「報恩学園グリーンホーム厚別」との交流行事について、発表がありました。この行事は平成21年にスタートし、今回は2年目とのこと。行事の当日は、メンバーで施設を訪問し、入所の方と体操やゲーム、工作などいろいろな遊びをして、とてもよろこんでもらえたそうです。

発表してくれた子ども運営委員会の皆さん、これからもみんなでいろいろなアイデアを出し合い、楽しい児童会館にしていってください。

札幌市の子ども参加 東区子ども ボランティア体験塾 雪まつり東区子どもおもてなし隊

東区では、子どもたちにさっぽろ雪まつりつどーむ会場でのボランティア体験をしてもらう「東区子どもボランティア体験塾」を行っています。

この取組は、子どもたちに、地域の人と交流しながら、ボランティア活動を体験することで、まちづくりへの参加のきっかけにしてもらおうと、東区地域振興課が行っている事業です。区民、企業、行政が一体となって来場者のおもてなしを行う「ひがしく雪まつり

ウェルカム協議会」の協力を得て、平成19年度から始まりました。

4年目となる今年、子どもたちは、会場づくりと来場者のおもてなしを担当しました。1月30日(日)には、会場づくりに東区内の小学生5名が集まり、「わくわくタッピーランド」内の雪のトンネルづくりに挑戦しました。氷点下の真冬日でしたが、みんな元気に、雪を集め踏み固めたり、型に雪を詰め、タッピーのミニ雪像をつくったりと大忙しでした。

また、2月11日(金)は、雪まつり来場者へのおもてなしのボランティア活動が行われ、子どもたちは、パンフレット配りを行ったり、



記念撮影の手伝いなどをしました。

最初は緊張して、どうやって声をかけようか戸惑っていた様子でしたが、「ありがとう」の一言に勇気が湧いてきたようで、「写真、お撮りしましょうか?」と積極的に声をかけ、写真撮影の手伝いを一生懸命がんばりました。活動が終わったあと、子どもたちは「たくさん写真撮影のお手伝いができてよかった」と充実した様子で話してくれました。みんな、今回の活動を通し、人のために何か役に立てること、ボランティアをすることの素晴らしさを実感できたようです。